







# 令和3年 **2**月の大阪森林便り

## 目次

### 今月の木の話 くんがい 薫蓋のクス (門真市三ツ島)

- (1)  針葉樹合板値上げ セイホク 1月から3~5%
- (2)  伝統建築の基盤をなす木の文化
- (3)  住宅向け木材が上昇 米での製材品高騰 波及
- (4)  森林保全と都市木造化で持続可能な未来へ
- (5)  国産針葉樹合板 在庫量0.8%増 12月末
- (6)  植えて、切る 次世代の手へ



### 今月の木の話



### くんがい 薫蓋のクス (門真市三ツ島)

\*幹回り 12.5M。大阪府内では最も太い樹木です。

\*樹高 25M、枝を東に 19M、西と南にそれぞれ 16M、北に 18Mと広がっています。

\*薫蓋の名称は、森のように茂っている様子を形容したものといわれています。

\*樹齢も千年を越し、天照大神、すさのをのみこと素盞鳴尊を祀る三島神社境内を、すっぽりとおおっています。

\*ケヤキは東日本に多いですが、クスノキは西日本、特に九州に多く分布しています。

\*大阪府内「市町村の木」も 17 件がクスノキ。

\*大阪にクスノキの大木が多いのは、土壌がクスノキの生育に適合していることによるでしょう。

(2008 年発刊 (社) 大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)

### (1) 針葉樹合板値上げ セイホク 1月から3~5%

\*国産合板大手のセイホクは、針葉樹合板の出荷価格を1月から3~5%引き上げました。

値上げは2019年6月以来1年7か月ぶり。

杉など原木丸太価格の上昇分を転嫁。

\*丸太の価格は例年梅雨時期まで下がり、出材が減る冬に上昇。

2020年は新型コロナウイルス禍の影響で例年より大きく下げましたが、九州の台風被害の影響や出材の調整で反転。

\*2020年11月末の国産針葉樹合板の在庫は112,007M3と、10月末比で4.4%減少。

前年同月比でも5.9%少なくなっています。

\*11月の生産量は10月比3.1%増えましたが、前年同月比では6%減少。

(2021年1月9日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (2) 伝統建築の基盤をなす木の文化

修理は価値を損ねる改変ではなく、使い続けていくための知恵の具体化

\*日本の伝統建築は、修理をしながら使い続けることを前提につくられています。

\*2つの木材をつなげる継ぎ手、仕口は、複雑な形状であっても外せません。後世の修理を想定しているからです。

\*日本の伝統的な木造建築物にとって、修理は価値を損ねる改変ではなく、使い続け、後世に伝えていくための知恵の具体化。

\*近年の伝統的な木造建築の修理では、耐震のために金属で補強するのも当たり前。

(2021年1月10日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (3) 住宅向け木材が上昇 米での製材品高騰 波及

対日価格 2年半ぶり高値

(2021年1月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用) \*木材価格が高騰。米国市場での製材品の高騰が背景。

\*ツーバイフォー製材品は、直近2か月で約70%上昇。

\*2020年11月の米国住宅着工件数は、前年同月比12.8%多い154万7千戸(年率換算値)。低金利や株高が背景。

在宅ワークが広がり、郊外に住宅を求める人も増えました。

\*日本国内加工の米材製材品は2020年12月、流通価格が3年1か月ぶりに上昇。

米松丸太が値上がり。

\*欧州産の木材も値上がり。

集成材の原料の「ラミナ」は、主力の欧州産の1~3月期の対日価格が、前四半期比7.9%高。

\*米国では製材品の先高観が根強く、日本の木材価格も一段と上がる可能性。

\*日本国内の住宅着工は、2020年11月まで17か月連続で前年同月を下回ります。

#### (4) 森林保全と都市木造化で持続可能な未来へ

\*2050年カーボンニュートラルの実現やSDGs（持続可能な開発目標）の達成に欠かせない森林保全。

そのサイクルを持続的に回していくためには、森林で伐採した木材を都市部で利活用していくことが求められます。

\*人工林は高齢化し、主伐期を迎えた森林が全体の5割に及びます。

\*住宅着工数の減少が予測され、住宅以外の建物での木材利用が重要となります。

\*木造の中高層ビルの木造化を図るには、法規制の緩和や木造耐火部材などの技術開発が欠かせません。

\*森林は所有者が不明、境界が不明確という状況が増えています。

\*育林経費が主伐時の収入より高く、主伐収入を山に還元できない問題もあります。

\*森林と木材の利用は、二酸化炭素吸収、炭素固定に加え、化石燃料比で二酸化炭素の排出削減につながります。

#### 全国知事会 国産木材需要拡大宣言 / 10の取り組み方針

1	自らが整備する公共建築物等における率先利用に努める
2	国産木材を活用した備品・消耗品の導入・活用に努める
3	木塀設置など、これまで進んでいなかった分野での活用に努める
4	市区町村における国産木材活用について緊密な連携に努める
5	地域住民の理解を深める教育活動や広報活動等の充実に努める
6	民間事業者等における利用拡大に向けた積極的な働きかけに努める
7	非住宅建築物における活用拡大を担う建築士等の育成に努める
8	新たな製品・技術の研究開発や普及に努める
9	加工流通施設の能力強化など安定供給体制づくりに努める
10	国産木材の利用拡大等に資する花粉発生源対策の措置に努める

\*木造建築の法定耐用年数は22年とされ、「長持ちしない」と誤解されてい

ます。

\*日本の林業は、安価な海外木材の流入に伴う競争力の低下、木造に対する建築法規の厳格化などの苦しい歴史をたどってきました。

\*人々は山林業から離れ、相続もされません。

所有者不明の山林や土地は、九州の面積を上回ります。

\*需要がない限り、国がいくら補助金を注ぎ込んでも林業の発展は見込めません。

\*カギを握るのは、オフィス、マンションなど木材使用量の大きい民間ビルへの活用

\*木は、熱にさらされた状態で鉄より高い強度を保ち続けます。

燃えても外周が炭化して防護するため、条件によってはコンクリートより高い耐火性を備えます。

\*木造ビルを設計・施工できる一級建築士が極めて少ないので、人材育成が必要です。

\*日本独自の厳しい耐火基準の緩和も欠かせません。

(2021年1月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (5) 国産針葉樹合板 在庫量 0.8%増 12月末

\*2020年12月末の国産針葉樹合板の在庫量は112,856M<sup>3</sup>と、11月末から0.8%増。

在庫増は7か月ぶり。

\*2020年通年の出荷量は2896,642M<sup>3</sup>と、2019年比10.4%減。2年ぶりに減少。

生産量は2887,729M<sup>3</sup>と、同9.8%減。

(2021年1月27日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



## (6) 植えて、切る 次世代の手へ

\*高齢化や後継者難で、全国の林業従事者は長期減少しています。

\*ところが、若手(35歳未満)の割合は平成以降、増加が続きます。

\*植林の山は全国で伐採期を迎えています。

\*伐採後は再植林の義務がありますが、手間を嫌いそのまま放置されることも多くあります。

\*森は人間が排出する二酸化炭素を吸収し育ちます。

(2021年1月31日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)